

# 知的障害

## (4) 進路指導 (キャリア教育) と職業教育

### ① 進路指導 (キャリア教育)

#### ア 進路指導の意義

学校教育においては、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視する観点から、児童生徒が自らの在り方生き方について考え、将来への夢や希望を抱き、その実現を目指して、自らの意志と責任で自己の進路を選択、決定する能力や態度を育成することが重要です。

進路指導の取組は、特別支援学校 (知的障害) の各教科においては、児童生徒が自立し社会参加するために必要な知識・技能及び態度などを身に付けるために、障害の状態や学習上の特性などを踏まえた目標や内容等が示されており、小学部段階から取り組むことが必要であるといえます。また、中学部段階では、自らの生き方を考え将来に対する目的意識をもって、主体的に自己の進路を選択決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができる能力や態度の育成に関する取組が必要であるといえます。特別支援学校 (知的障害) の多くでは、中学部段階から働く意欲を培い、将来の職業生活や社会的自立を目指し、生活する力を育むことを意図した作業学習が取り組まれています。

中学部段階の生徒は心身両面にわたる発達著しく、自己の生き方についての関心が高まる時期にあります。このような発達段階にある生徒が自分自身を見つめ、自分と社会とのかかわりを考え、将来様々な生き方や進路の選択の可能性があることを理解するとともに、自らの意志と責任で自己の生き方、進路を選択することができるよう適切な指導・援助を行うことが必要です。

加えて、高等部段階における生徒は、人間としての在り方生き方を模索し、自我を確立し、価値観を形成するという時期にあります。このような発達段階にある生徒が自己理解を深めるとともに、自己と社会のかかわりについて深く考え、将来の生き方、進路を選択して将来の生活において社会参加ができるよう指導や援助していくことが強く望まれます。

#### イ 卒業後の進路状況

##### (ア) 特別支援学校 (知的障害) 中学部の進路状況

図Ⅱ-3-2に、特別支援学校 (知的障害) 中学部卒業生の進路別人数の推移を示しました。進学者が年々増加し、特に高等部への進学者は2013年 (平成25年) では全体

の 97.9%を占めています。進学者が増加しているのに対して、児童福祉施設・医療機関、就職、教育訓練機関等は減少しています。

#### (イ) 特別支援学校（知的障害）高等部の進路状況

図Ⅱ－3－3に、特別支援学校（知的障害）高等部卒業生の進路別人数の推移を示しました。高等部の卒業者数は2008年（平成20年）に一時的に減少しましたが、その後増加を続けています。内訳をみると、就職者は2003年（平成15年）まで減少傾向でしたが、その後、増加に転じ、2013年（平成25年）には2003年（平成15年）の約2.4倍になっています。

進学者は2004年（平成16年）まで微増傾向でしたが、その後の10年は80人程度となっています。教育訓練機関等は2006年（平成18年）まで増加し続け、その後は250人から300人程度を推移しています。社会福祉施設・医療機関は1994年（平成6年）と2013年（平成25年）で比較すると6,000人以上増えており、増加傾向は続いています。

#### (ウ) 特別支援学校（知的障害）高等部卒業者の職業別就職者数

図Ⅱ－3－4は、特別支援学校（知的障害）高等部卒業者の職業別就職者数です。平成25年度においても「製造・製作」は大きな割合を占めますが、「サービス」「販売」「事務」「運輸・通信」「運搬・清掃等」などの業種もその割合が増えてきており、職種の多様化が見られます。

### ウ 指導上の配慮事項

生徒が自分自身を見つめ、自分と社会とのかかわりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解するとともに、自らの意思と責任で自己の生き方、進路を選択するような能力や態度を育てるためには、各学校が進路指導の目標をもち、その実現を目指して教育活動全体を通じ、計画的、組織的、継続的な指導を行っていくことが必要です。

中学部における進路指導は、特別活動の学級活動を中核としつつ、総合的な学習の時間や学校行事の勤労生産、奉仕的行事における職場体験活動などの進路にかかわる啓発的な体験活動及び個別指導としての進路相談を通じて、生徒の入学時から各学年にわたり、学校の教育活動全体を通じ、系統的、発展的に行っていく必要があります。

進路指導を効果的に進めていくためには、校長や副校長、教頭の指導の下、全教職員の共通理解を図り、進路指導主事を中心とした校内の組織体制を整備し、学校全体として協力して進めることが重要です。また、学級担任の教師をはじめ、教師が相互に密接な連絡をとり、それぞれの役割・立場において協力しながら進路指導を進め、地域社会や福祉、労働等の関係機関との連携を十分に図って取り組むことが重要です。特に生徒が主体的に進路を選択できるよう、労働関係機関と連携を図り、生徒や保護者に対して適切な時期に必要な情報を提供することが重要です。

高等部における進路指導は、高等部教育の目標である「社会において果たさなければな

らない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させる」ことや、「個性の確立に努めること」を目指して行われるものであり、全校の教職員の共通理解と協力的指導体制によって、学校の教育活動全体を通じて計画的、組織的、継続的に実践されてきています。また、進路指導が児童生徒の「社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す」（中央教育審議会、2011）キャリア教育の一環として重要な役割を果たすものであること、学ぶ意義の実感にもつながることなどを踏まえて指導を行うことが大切です。

さらに、進路指導において保護者との協力が不可欠であり、個別の教育支援計画を活用しながら地域社会や福祉、労働等の関係諸機関と連携を十分に図って取り組むことが大切です。

## ② 職業教育

一般に、職業教育では特定の職業に就くために必要な知識・技能及び態度を身に付けることを目指しますが、知的障害者に対する教育においては、従来から将来の社会参加を目指し、社会人や職業人として必要とされる一般的な知識・技能及び態度の基礎を身に付けるようにすることが重視されています。

このために、特別支援学校（知的障害）においては生徒、学校及び地域の実態等を考慮して、一人一人の課題に応じた具体的な場面を設定し、実際的な活動を通して総合的に学習する作業学習や産業現場等における実習が指導の中心になります。

なお、特別支援学校（知的障害）における職業教育に関する各教科の内容として、中学部段階においては、明るく豊かな職業生活や家庭生活が大切なことに気付くようにするとともに、職業生活及び家庭生活に必要な基礎的知識と技術の習得を図り、実践的な態度を育てることを目標とした職業・家庭科があります。高等部段階では各学科に共通する各教科、主として専門学科において開設される各教科があります。

各学科に共通する各教科等における職業教育は次のようになっています。

ア「職業」：勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てることを目標とした教科

イ「家庭」：明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め、実践的な態度を育てることを目標とした教科

ウ「情報」：コンピュータ等の情報機器の操作の習得を図り、生活に必要な情報を適切に活用する基礎的な能力や態度を育てることを目標とした教科

また、主として専門学科において開設される各教科における職業教育は次のようになっています。

ア「家政」：家庭に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、生活に関連する職業の意義と役割の理解を深めるとともに、生活に関連する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることを目標とした教科

イ「農業」：農業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、農業の意義と役割の理解を深めるとともに、農業に関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることを目標とした教科

ウ「工業」：工業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、工業の意義と役割の理解を深めるとともに、工業に関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることを目標とした教科

エ「流通・サービス」：流通やサービスに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、それらの意義と役割の理解を深めるとともに、流通やサービスに関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることを目標とした教科

オ「福祉」：社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、それらの意義と役割の理解を深めるとともに、社会福祉に関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることを目標とした教科

特別支援学校（知的障害）における実際の指導では、多くの場合、各教科等を合わせた指導としての作業学習において、上記教科の内容を含み指導が行われています。

なお、我が国の特別支援学校（知的障害）高等部に設置されている学科の多くは普通教育を主とする学科（普通科）ですが、専門教育を主とする学科（職業学科）を設置する学校も次第に増えています。

また、専門教科「福祉」は平成21年告示の特別支援学校学習指導要領により新設された教科です。